

《発表のテーマ》 RPAによる定期支払処理の自動化

<発表概要or今年の特徴>

これまでは室内で月100件以上ある定期支払の業務を毎月、各担当で手分けをして起案していましたが、RPAを導入したことで、夜間に、RPAが自動で起票・起案準備を完了するようになったため、大幅に作業時間を短縮できました。

<改善運動の特色やアピールポイントなど>

庁内で類似の業務がある場合は事例を横展開し、全体として効果が大きくなるよう積極的に取組を発信しています。業務担当が本来の業務に専念できる時間を増やし、より良い市民サービスに繋がるよう取組んでいます。

<メッセージ・意気込み>

川崎市は市制100周年を迎えました。次の100年に向けて持続可能な組織であるために業務改善に取り組めます！

これからはじまる
Colors, Future! Actions
さあ、いっしょに。



2024年、川崎市は市制100周年

部署名	神奈川県川崎市 総務企画局デジタル化施策推進室
タイトル	RPAによる定期支払処理の自動化
改善前 【Before】	<p>定期支払制度とは、年間を通じて「支払先」、「支払時期」、「支払金額」が確定している経費について、支払事務を簡略化する仕組みである。</p> <p>一方、デジタル化施策推進室では、システムやネットワーク等の運用支援や保守に関する委託、機器の賃貸借契約を多数扱っていることから、毎月100件以上の定期支払事務が発生しており、手作業で起案等を行うため、単純作業ではあるが大きな手間となっていた。</p>

取組内容

1件あたりの事務は「単純化・効率化」されているが
処理すべき件数が多い



室内で手分けして処理をしていたが、
より効率的に処理をしたい！



- ①「単純で反復的」
 - ②「案件の数が多い」
- という業務特性がある



RPAを導入

取組内容

改善前



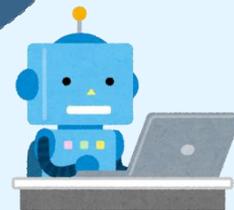
改善後の実施イメージ

業務の合間に
起案処理

翌日に最終確認して
起案完了

集約して
夜間にRPAが
自動処理

事前に必要な情報を
エクセルシートへ準備



入力・起案
約3分／1件 × 処理件数
約100件／月



約60時間／年

の作業を自動化



効果
【After】

(改善の成果
・取組の効果)

⇒担当本来の業務への専念できるように！